

チエシマイ五行歌の会 ニュースレター

Vol.1
2008.1.31

平成二十年度最初の歌会が一月二十四日一時三十分から看護師養成学校で行われました。

参加者は、馬淵さん、北川さん、吉見さん、今津の四人だけで寂しい会でした。新里さんと高田さんは作品は提出しましたが、体調が悪く当日参加できませんでした。合評は北川さんが進行役をして下さいました。参加者が少なかつたので、自分の作品を除くとたったの三首だけなので、全部の作品を対象に一点、二点、三点を配分して総合点の制限は無しという変則ルールで行いました。全作品と合評は次の通り。

絆という言葉が
好き

親子、兄弟、夫婦、友情などを
どんなに離れても、固く結ぶ
哀しく、美しいと思う

(吉見)

それは動き、しかも動かない

それは遠く、また近い

それは全てのなかにあり

またその外にある

ダイナミックなリアリティなり

(馬淵)

チエシマイ五行歌の会 ニュースレターは毎月末にお届けする予定です。次第に記事を充実させたいと思います。皆様からのニュースも掲載できればと思います。

時には風に吹かれ
雨に濡れた日も
青空にも恵まれ来た
今や小春日和の日々
六十八度目の正月に感謝

(北川)

ウボンの農夫が

竹笛を吹く

四方の森から

女達が集う

月明かりに牛の影

(今津)

得点は、吉見6点、馬淵6点、北川6点、今津7点と横並びでした。

吉見作品は、二行の字数が二で三、四、五行の字数が多いので声に出して読んだときに響きがどうかとの意見がありました。作者は、二行目を意図的に少なくして強調したかったとのこと。

各行の時数に関連して、五行歌は、五、七、五、七、七ではいけないのか、と言う疑義がありました。これに関しては、字数は自由なのだからかまわないということでした。

馬淵作品は、五行目にもう少し工夫が欲しかったという意見が出ました。作者は、仏教にいう「無常」の観念を歌ったとのこと。日本人の作品は私的な対象が多いところ、今回の馬淵作品は気宇壮大でタイ人や欧米人に近いとの感想がありました。

北川作品は、小春日和と正月という季節のずれが一見気になるが、俳句ではないので問題なしと

の意見がありました。作者は、これまでの帰り方を振り返った素直な印象とのことでした。

今津作品は、想像による創作で絵のようだと意見がありました。作者は、最後の一行を除いて、実際にウボンに滞在して会った人物を歌ったとのこと。この他にも、時間が十分あったので、自由な評価が多々行われましたが、紙面の関係で略します。

なお、石井さんは体調が悪いとのこと、作品も提出されませんでした。どうぞお大事に。そして次回は是非参加して下さい。

ピンボンさんは、ご御堂のお見舞いに郷里に帰ってしまいました。トットさんは仕事が忙しく作品が作れませんでした。川口さんは、当日は通訳の仕事が入り、参加できませんでした。

次回からは、なんとか十人規模の歌会になればと思っています。いよいよバンコク支部が正式に発足することです。草壁主宰はバンコク支部の設立記念歌会に参加し、その足で二月二十八日のチエシマイ五行歌会に参加されるとの連絡がありました。バンコク支部の設立世話人の方からチエシマイ支部の運営について問い合わせがありました。「タイにおける先輩の支部だから」と言われたのですが、少し面映いところでした。

次回は、二月二十八日。一時三十分からです。場所はいつもの看護師養成学校です。作品は北川さん宛てに電子メールか郵便で二月十五日までに送って下さい。会則や合評会の進め方役割分担など重要な事項も話し会う予定です。

なお会員を増やしたいと思しますので、お知り合いに声を掛けてみて下さい。(文責 今津)